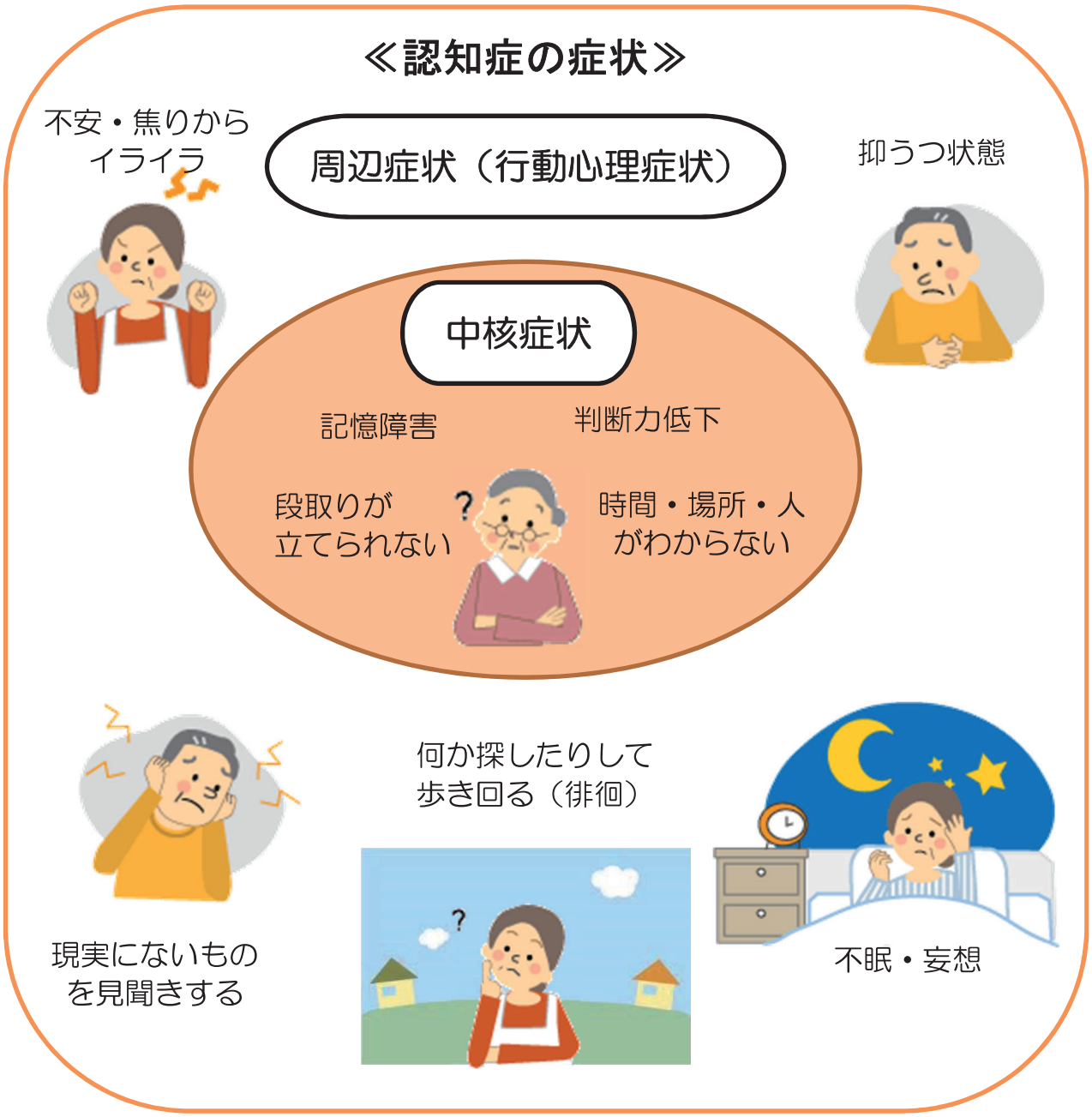
２．認知症の基礎知識

（１）認知症とその症状

認知症とは、「**いったん正常に発達した知能（脳）に何らかの原因で記憶・判断力などの障害が起き、日常生活がうまく行えなくなる状態**」をいいます。

症状としては、下の図で示すように、脳障害そのものによって起こる記憶・判断力低下などの「**中核症状**」と、本人がもともと持っている性格や環境、人間関係など様々な要因がからみ合って起こる、うつ状態や妄想といった「**周辺症状（行動心理症状：BPSD)**」とがあります。



（２）認知症の原因となる病気

認知症の原因となる病気には様々なものがありますが、次の３つの疾患を原因とするものが全体の８割以上を占めており、これらが**三大認知症**と呼ばれています。

≪アルツハイマー型認知症≫

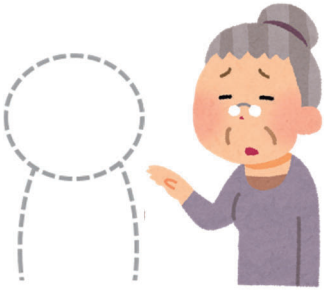
●どんな病気？

認知症の原因として最も多いといわれています。
原因ははっきりしていませんが、脳の神経細胞が徐々に減少していき、それにより脳が萎縮するために起こります。

●主な症状

初期の段階から、もの忘れ（記憶障害）が始まり、ゆっくりと時間をかけて進行します。

≪レビー小体型認知症≫



●どんな病気？

原因はわかっていませんが、「レビー小体」という特殊なたんぱく質が、大脳皮質に全体的に出現することで起こります。

●主な症状

初期の段階から、もの忘れに加えて、実際にはないものが見える「幻視」が起こりやすいのが特徴です。
また、身体や表情がかたくなる・手が震えるなどの「運動機能障害」や、立ちくらみ、失神等を引き起こす「自律神経障害」を伴うことも少なくありません。

≪脳血管性認知症≫

●どんな病気？

脳梗塞や脳出血などの脳血管障害を起こした後、その後遺症として起こります。

●主な症状

脳がダメージを受けた部位によって異なり、認知機能の低下のほかに、物事の段取りが立てられなくなる、注意力散漫、感情のコントロールができなくなる、手足の麻痺、ろれつが回りにくいなどが現れることがあります。症状が突然現れたり、変動したりすることもあります。

（３）「認知症」と「もの忘れ」のちがい

もの忘れは、自然な脳の老化によって誰にでも起こり得るものです。もの忘れが「物事の一部を一時的に忘れる」のに対して、認知症では「まったく記憶にない」ので思い出すことができません。そのため、日常生活に支障が出てきます。

●体験のすべてを忘れる 食べたこと自体を忘れる	忘れ方	●体験の一部を忘れる 食べたものを忘れる
●自覚がない 忘れていることを 理解できなくなる	もの忘れの 自覚	●自覚がある 忘れていたことに 自分で気付く
●わからなくなる	親しい人や 場所	●忘れない
●変化がある 怒りっぽくなったり 頑固になったりする	性格の変化	●変わらない
●わからなくなる	今いる 場所や時間	●わかる

※あくまで目安であり、当てはまらない人もいます

日常生活に支障が出る